

滋賀県環境こだわり農業推進基本計画の進捗状況と評価

進捗状況						
年度	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)

【環境こだわり米の作付面積割合】

実績	45 %	44 %	44 %	44 %	44 %	50%以上 (目標)
----	------	------	------	------	------	---------------

(進捗の評価等)

○ 米の需要減少等により主食用米の作付けが減少する中、環境保全型農業直接支払交付金制度の活用等により、環境こだわり米の作付面積の割合は横ばいで推移している。しかし、依然として①慣行栽培に比べ、収量・品質が不安定な場合があり、また、栽培に係るコストや手間が増加すること、②手間をかけて生産されているにもかかわらず、一般農産物と区分されず取り扱われている事例が多いことなどから、作付面積は微減となっている。

○ 今後も、引き続き、交付金を活用した生産拡大を図るとともに、消費者の理解促進の取組に加え、環境こだわり米こしひかりの専用パッケージでの販売などによる有利販売・流通拡大に向けた取組を強化する。さらに、環境こだわり農業の象徴的な取組として、オーガニック近江米の生産拡大と販路開拓を進め、環境こだわり農産物全体のブランド力向上を図る。

【環境こだわり米作付面積(みずかがみ、コシヒカリ)】

みず	2,575ha	2,748ha	3,208ha	3,299ha	3,254ha	3,000ha以上
コシ	5,148ha	4,917ha	4,718ha	4,552ha	4,502ha	6,000ha以上
合計	7,723ha	7,665ha	7,926ha	7,851ha	7,756ha	9,000ha以上

(進捗の評価等)

○ ①主食用米の生産面積が減少したこと、②コロナ禍にあって米価下落が予想されるなか、農業者の経営判断により、飼料用米などへ作付け転換されたことなどから、環境こだわり米の作付面積は減少している。

○ 今後は、環境こだわり米の「みずかがみ」と「コシヒカリ」の有利販売・流通拡大に向け、集荷事業者のJA・全農しが、卸売事業者、量販店と連動した販売促進活動への支援等の取組を強化することにより、生産拡大につなげる。

【野菜で環境こだわり農産物の生産拡大を図る重点推進品目数】

実績	—	—	1品目	3品目	3品目	3品目以上 (目標)
----	---	---	-----	-----	-----	---------------

(進捗の評価等)

○ 「滋賀県園芸農産振興協議会」において、にんじん、かぼちゃ、こまつなを重点推進品目に定めた。

○ 主産地と関係機関・団体よりの重点品目のPR手法を検討し、販売促進用資材(販促用台巻、ミニのぼり)の作成や、記者資料の提供によりPR活動を行った。

○ 記者資料提供については、主産地の地元小学生による収穫体験学習に併せて行い、新聞記事へ掲載され販売促進につなげることができた。

【オーガニック農業(水稲)取組面積】有機JAS相当の水稲作付面積

実績	146ha (247ha)	131ha (254ha)	133ha (291ha)	237ha	269ha	(変更後)300ha (変更前)420ha
	※集計方法変更に伴い目標値変更 () 内は変更前の実績値					

(進捗の評価等)

○ 生産面では、乗用型水田除草機の現地実演会や各種研修会、機械導入補助等を行い安定栽培技術の啓発・普及を行った。

○ 販売面では、首都圏における販路開拓マネージャーの設置やオーガニックEXPOへの出展を進め認知度向上に取り組むとともに、玄米パックスやオーガニックパンケーキミックスの試作商品を活用した新規販路の開拓、統一デザインの米袋を用いた量販店での継続した販売を行った。

進捗状況						
年度	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)

【オーガニック農業(茶)取組面積】(有機JAS相当の茶面積)

実績	7ha	11ha	12ha	11ha	12ha	12ha (目標)
----	-----	------	------	------	------	--------------

(進捗の評価等)
 ○ リーフ茶の需要拡大と「近江の茶」ブランドの向上を図るため、輸出に幅広く対応できる有機栽培の取組を支援した。
 ○ 実証ほの設置や品質評価等を実施することにより、うま味のあるオーガニック茶生産に向けた技術改善を支援した。
 また、産地での話し合いを行い、効率的な製茶体制に向け情報交換し、有機JAS認証取得の機運が高まった。
 ○ 産地体制の構築に向けた取組としてオーガニック栽培を推進する産地において、実証ほの設置を支援した。

【魚のゆりかご水田取組面積】

実績	131ha	148ha	143ha	143ha	182ha	250ha (目標)
----	-------	-------	-------	-------	-------	---------------

(進捗の評価等)
 ○ 近年、取組面積増加が緩やかになっているが、推進もすすめており新規地区も増えている(野洲市 野田など)。
 ○ 流通に関しては、コロナ禍で米消費量が減少している影響を受けている。積極的な流通拡大は難しい状況にあるなかで、令和4年2月以降にイオンスタイルの京滋の9店舗で取り扱いがはじった。他にも新規でネット通販される事例がでてきている。
 ○ 令和3年度には、(株)パールライス滋賀で新しいパッケージの利用がはじまった。
 ○ また今年度は、生物に関する調査を協議会において実施している。SDGs15「陸の豊かさを守ろう」に貢献する取組として消費者へ説明できるものとする。

※継続把握指標(目標値は持たないが継続して把握する必要がある指標)

【環境こだわり農産物の認知度】

実績	45.7%	45.7%	-	-	-	
----	-------	-------	---	---	---	--

【環境こだわり米「コシヒカリ」の集荷量に対する出荷割合】

実績	37.8%	26.4%	44.0%	49.4%	57.3%	
----	-------	-------	-------	-------	-------	--

【有機JASほ場面積】

実績	186ha	170ha	188ha	202ha		
----	-------	-------	-------	-------	--	--